



学校だより

横浜市立桂台小学校
学校長 渡邊 勉
横浜市栄区桂台南1-1-1
TEL 891-8000

令和4年度 5月号



礼儀正しいあいさつができる子どもたちに感心しています

校長 渡邊 勉

早いもので、新年度がスタートしてから1か月が過ぎようとしています。季節は、春から初夏へと移り、木々の緑がまぶしく風も心地よく感じます。中休みやロング昼休みの校庭には、ボールや遊具、長縄で遊ぶ子どもたちの元気な声があふれています。少しずつ新しい仲間づくりができています。1年生も日に日に学校に慣れ、学校探検では校内にどのような教室や場所があるのか、また誰が何の仕事をしているのかを興味津々な様子で調べていました。4月の最終週には、待望の中休みの外遊びも始まり、友達と楽しそうに過ごす姿が見られました。

さて、桂台小学校では、子どもたち一人ひとりの学びを大切にすることはもとより、集団だからこその学びの重要性も念頭に置いて指導していこうと日々子どもたちに接しています。

基礎・基本となる学力をしっかりと身に付けられるようにするのはもちろんですが、集団や人との関わりの中で「人としての生き方につながる考え方」もしっかり身に付けられるように支援していく必要があると思っています。『あいさつがしっかりできる』『礼儀やマナーを身に付け、その場にあった行動をとれるようにする』ことは、これらの考え方の柱となっています。

過日、いろいろな学年の子どもたちが職員室や校長室を訪ねてきました。その時に穏やかな態度で「失礼します」「今よろしいですか」「ありがとうございました」等の言葉がしっかりと伝えており、ご家庭での『しつけ』が行き届いているんだなあと感心させられる場面がありました。

『しつけ』は、漢字で「躰」と書きます。この字は中国から伝えられたものではなく、日本で考案されたものです。身を美しく保つことが『しつけ』となっていたのだろうと想像することができます。

洋裁でも和裁でも、仮縫いをする時に細い糸で型を整えます。この糸のことを「しつけ糸」と言います。「しつけ糸」は、洋服や着物の大事な部分の総てにかけることがよいとされています。これがいい加減だと、型が崩れてしまいます。また、「しつけ糸」に太くて丈夫な糸を使うと、出来上がった時に布地に穴が開いてしまいよい製品にならないそうです。細い糸でまんべんなくかけることが大切だそうです。

しかし、製品が出来上がった時に「しつけ糸」は取ってしまいます。いつまでも製品にへばりついているわけではありません。家庭や学校での「躰」も、この「しつけ糸」と同じではないでしょうか。乳幼児期から今まで、保護者の皆様があらゆる場面の一つひとつにいていねいに、そして、気を配って「しつけ糸」をかけてこられました。そして、子どもたちは徐々に自立した存在として型を整えつつあります。この「しつけ糸」をはずすのは、はずしても型が崩れる心配がなくなった時です。つまり子どもが自立する時です。子どもが自立するまでは、保護者や教師、周りの大人たちからの、ていねいな支援が必要です。

子どもを自立させるためには、正しい『しつけ』を行い、それが決して「押しつけ」にならないように注意することも大切です。

子どもが、保護者や教師、周りの大人の手を離れられるようにするために、そして自分の力で、正しく生きていくことができるようにするための下地を作っていくのが大人の務めなのだと思います。

これからも学校・家庭・地域が連携して、子どもたちを支えていくことができますよう、どうぞご協力をお願いいたします。